

日本化学工業協会技術賞「環境技術賞」受賞

ライオン

ライオンは、富士電機と共同開発した植物系の電気絶縁油が、高い生分解性や廃棄時のCO₂排出量削減など環境負荷低減に貢献し、かつ独創的で科学技術の進歩に寄与した製品、技術として認められ、このほど、一般社団法人日本化学工業協会「第47回日本化学工業協会技術賞」にて「環境技術賞」を受賞した。

電気絶縁油は全世界で毎年100万キロリットルもの需要があるが、そのほとんどが石油系の鉱物油であるため、植物を原料とする植物系絶縁油の導入が進めば、大気中のCO₂を増やさないカーボンニュートラルな環境負荷低減に貢献する。しかし、従来の植物系の絶縁油は、粘性が高いため冷却効果が劣るほか、低温安定性が確保できず、寒冷地で油の性状が変化するなど性能面に課題があり、あまり普及してこなかった。

この課題に対して、同社は富士電機と共同で研究に取り組み、世界で初めてパーマシブ油を原料に採用した植物系の電気絶縁油「パステルNEO」を開発。両社は互いに保有する様々な技術を丁寧に関わりあわせ、最適な分子構造を持つことで、鉱物油に比べて、廃棄時に発生するCO₂排出量の削減が実現した。

従来の植物系絶縁油よりも高性能な環境配慮型電気絶縁油を作ることになった。

コーシー

でき、さらに、冷却性能を向上させたことで、従来の絶縁油では困難であった変圧器の小型化を可能にし、部材使用量の削減にも成功した。

同社の新型容器は、従来のリキッドファンデーションの「ムラになる」「時間がたつとヨレる」「手が汚れる」などの不満要素を、スポンジでときにリキッド状になりやすい「ファンデーションUV」の全く新しい機構を持つ容器が、独自性や新規性を評価され、公益社団法人日本包装技術協会「第39回木下賞」にて「研究開発部門賞」を受賞した。

エスプリークの新容器が「第39回木下賞」を受賞

開発したファンデーション「エスプリーク」の「手が汚れる」などの不満要素を、スポンジでときにリキッド状になりやすい「ファンデーションUV」の全く新しい機構を持つ容器が、独自性や新規性を評価され、公益社団法人日本包装技術協会「第39回木下賞」にて「研究開発部門賞」を受賞した。



(禁無断転載) ©R
本紙の全部または一部を無断で複製(コピー)することは、堅く禁じられております。
本紙からの複製を希望される場合は、出版者著作権管理機構(JCOPY) (03-3513-6969)まで必ずご連絡下さい。



古文講師・文筆家 萩野 文子 氏



「元氣君の持つその素朴な好奇心はやがてアカデミックなものに昇華し、自ら判断し動ける人になる。会社だつて、小さな好奇心がすべての起源のはずだ。教える側である上司がマニュアル通りにしか動けないロボット君だと、部下もロボット君にしか成長しない。まずは自分が好奇心旺盛な元氣君になつて、仕事の本質を教えていってほしい」(中)

予備校講師30年の経歴を持つ「受験界のマドンナ」。代々木ゼミナール初の女性講師として仮採用されると、その手腕を発揮し、生徒から常に高い支持率を受け、「躍有名になる。その後、東進ハイスクールに古文講師として転籍し、衛星中継による映像授業を推進

支持率90%以上を維持し続けた萩野氏による心を通じたテクニックを伝授した。萩野氏曰く生徒は皆「秀才君」「ロボット君」「元氣君」「はにわ君」の4タイプに分けられるという。そして、その4種の「周波数」に合う説明法を用意して授業を進めているが、

教える側が好奇心旺盛な「元氣君」に